



先のアベノ
ミクスにお

4月の早朝、ある一室に入
室すると、間もなく多くの国
會議員に埋め尽くされた。こ
の日、私は自民党政務調査会
における中小企業の潜在力を
活用した地域活性化(地域資
源の活用)について講師役を
仰せつかり、東京・永田町の
自民党本部を初めて訪れた。

こうして5月下旬まで私を
含め全国から20人を超える講
師役が、さまざまなテーマで
勉強会に招かれてディスカッ
ションに参加、そして5月29
日、自民党政務調査会により、
「地域経済好循環実現のため
の提言」『ローカルアベノミ
クス』の実現に向けて」が

まとめられ
た。

これは、

いて、恩恵を受けることで
きる主体が大企業に絞られる
傾向が強く、地域経済を支え
ている中小企業や小規模事業
者の景気回復の遅れや、中長
期的な地域経済の展望を見い
だせない地域も多く存在して
いる背景が前提にある。
そのような中に「地域」を

ミクス」である。

好循環な地域経済とは何
か。私なりに、現有する地
域資源の多面的活用や柔軟な
連携による高付加価値化と、
自律した資金循環を生み出す
活力ある地域経済と解釈して
いる。そしてこの自走のため
には、「出口戦略(消費の側

経済環境は、高度経済成長か
ら一転し、縮退経済という誰
しもが経験のない局面と向き
合っている。そうした昨今、
自律する地域活性や国際競争
力向上のためには、生産と消
費の距離だけではなく、面で
捉えた地域の高付加価値化が
求められるようになった。

全国に千を超えて設置される
道の駅同士、それぞれが個々
の経営や行政単位の枠を超え
て、ネットワークを生かした
能動的な協働で結ばれた時、
必ずや地域経済の好循環を推
進する歯車として大きな原動
力になると私は確信してい
る。

地域経済への新しい矢

ターゲットに絞った新たな中
小企業・小規模事業者の成長
プランを示し、ローカル経済
圏の経済性や産業特性を踏ま
えた新たな政策体系の確立、
地域資源の持続的な発展と再
生産で、自律する地域経済の
好循環を生み出す仕組みを目
指すものが「ローカルアベノ

面を捉えた事業化の道筋」
を見据えて生産と消費の距離
感を縮めることが極めて重要
なプロセスになっている。

しかしながら、かつての高
度経済成長下の経済が作り出
した分業のシステムは、知ら
ぬ間に生産と消費の距離を遠
ざけてきた。現在、わが国の

当社は道の駅の経営事業を
展開しているが、こうした道
の駅は、まさに地域経済を面
で捉え「つなぐ、結ぶ、場づ
くり」を通して付加価値創造
の結節点機能を果たす中核拠
点としての役割がある。

元来は行政管轄単位で設置
される施設ではあるが、今や

さていよいよ検討され始め
た地域への新しい矢、放たれ
る矢の真価は地域側が握るこ
とになりそうである。なぜな
ら目指すべき地域経済の好循
環化は、枠意識や固定観念、
縦割りの発想からは決して生
み出せないからである。自律
する活性化のためには、ぜひ
ともダイナミックな発想で、
放たれる矢を受け取りたいも
のである。

(ファーマーズ・フォレス
ト代表)